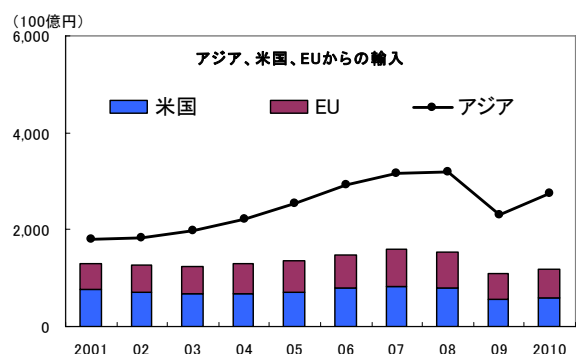
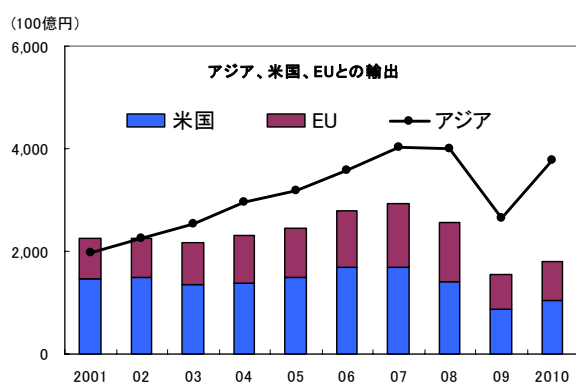


2010年の貿易統計から

1. 対アジア貿易は、初めてわが国貿易総額の5割を突破

2010年のわが国の貿易は、輸出が67.4兆円(前年比24%増)、輸入が60.6兆円(同18%増)、総額では128.0兆円(同21%増)となった。

対アジア貿易は、輸出が37.8兆円(同29%増)と3年ぶりに増加し、輸入も27.5兆円(同20%増)と増加に転じた。その結果、総額では65.3兆円(同25%増)となり、わが国貿易総額の51%を占め、初めて5割を突破した。



出所：財務省

一方、対米貿易は、輸出が10.4兆円(同19%増)、輸入が5.9兆円(同7%増)、総額では16.3兆円(同14%増)となり、わが国貿易総額の13%を占めた。対EU貿易は、輸出が7.6兆円(同13%増)、輸入が5.8兆円(同5%増)、総額では13.4兆円(同10%増)となり、わが国貿易総額の10%を占

めた。

わが国の貿易総額に占めるアジアの比率は2000年の41%から、この10年間で10ポイント高まった。一方、米国は25%から12ポイント、EUは15%から5ポイント低下した。

2. アジア新興国への依存の高まり

2000年に入ってから対アジア貿易は好調に推移している。リーマン・ショックで落ち込んだものの、アジアの新興国の高い経済成長を背景に、対米国や対EUに比べると、V字回復を遂げており、アジアへの依存度を高めている。

対中国貿易は、輸出が13.1兆円(前年比28%増)、輸入が13.4兆円(同17%増)、総額で26.5兆円(同22%増)となり、わが国貿易総額の21%を占めることとなった。中国は、輸出が過去最高を記録し、2年連続で輸出入とも最大の貿易相手国になった。

アジアNIEsは、輸出が16.0兆円(同26%増)、輸入が5.4兆円(同21%増)、総額で21.3兆円(同25%増)となり、わが国貿易の17%を占めた。

ASEANは、輸出が9.9兆円(前年比32%増)、輸入が8.8兆円(前年比21%増)、総額で18.7兆円(前年比27%増)と増加し、わが国貿易の15%を占めた。

3. 日本企業とFTA

日本企業は、円高対応やコスト削減のために、生産・調達面での最適化を図りつつ、アジアに生産拠点を移転している。アパレルや電子部品などには、中国の賃金や人民元の上昇を懸念し、中国から他のアジアの新興国に一部工場を移転する動きもあり、見直しが始まっている。一方、アジアにおいては、購買力が拡大しており、消費市場としての役割が注目されている。2010年の中国向け自動車輸出は25万台(同64%増)、6,200億円(同71%増)となっており、有望市場となってきた。

貿易総額の伸び率を比較すると、ASEAN が前年比 27%増、アジア NIEs が同 25%増と、中国の同 22%増を上回っている。わが国は、ASEAN とは経済連携協定を結んでおり、その効果が期待されている。

他方、ASEAN は貿易自由化を進めており、中国、韓国、豪州、ニュージーランドなどとも FTA を締結している。日本企業は、ASEAN 域内だけでなく、域外への輸出拠点として、ASEAN の現地法人から日本が FTA を結んでいない中国や韓国に輸出しており、今後このようなケースが増えていく傾向にあるとみられている。

2010 年の国際収支から

2月8日に平成22年中国際収支状況(速報)が発表されたので、経常収支の概略を紹介する。

1. 2010年の経常収支の概要

経常黒字3年ぶり増加

海外とのモノ、サービス、投資などの取引状況を総合的に示す経常収支は、17.1兆円の黒字(前年比3.8兆円増、同29%増)で、3年ぶりに増加に転じた。水準は、ピーク時の07年と比べると7割弱程度であった。

主要因としては、貿易収支の黒字が、前年の約2倍と増加したことが挙げられる。

経常収支の動き (億円)

	2009年	2010年(P)	前年差
経常収支	132,867	170,801	37,934
貿易・サービス収支	21,249	65,201	43,952
貿易収支	40,381	79,969	39,588
輸出	508,572	639,203	130,631
輸入	468,191	559,234	91,043
サービス収支	-19,132	-14,768	4,364
所得収支	123,254	116,414	-6,840
経常移転収支	-11,635	-10,814	821

2. 主要項目別の動向

(1) 貿易・サービス収支:

貿易収支の黒字が増加、黒字2年連続の増加

貿易・サービス収支黒字は、6.5兆円の黒字(前年比4.4兆円増、同207%増)で、前年比3倍となった。

内訳の「貿易収支」黒字は増加、「サービス収支」赤字は減少となった。

①貿易収支:黒字2年連続の増加

輸出から輸入を差し引いた貿易収支は、8.0兆円の黒字(前年比4.0兆円増、同98%増)で、2年連続して黒字が増加した。

輸出は、63.9兆円(前年比13.1兆円増、同26%増)で、3年ぶりに増加に転じた。

輸入は、55.9兆円(前年比9.1兆円増、同19%増)で、2年ぶりに増加に転じた。

②サービス収支:

赤字は3年連続で減少し、過去最小

サービス収支赤字は、1.5兆円(前年比4,400億円増)と、赤字が減少した。

サービス収支の内訳である「旅行収支」は訪日外国人客が過去最高の860万人に達し、日本での支出が増え、「その他サービス収支」は特許使用料収入が増えて黒字が増加し、サービス収支全体として赤字は減少した。

(2) 所得収支:

黒字幅は3年連続の縮小、1ドル=80円台の円高も影響

本邦企業の海外子会社等からの再投資収益の受取減少等により、所得収支の黒字は、11.6兆円(前年比6,800億円減、同6%減)と減少した。

(調査グループ 関谷裕介)